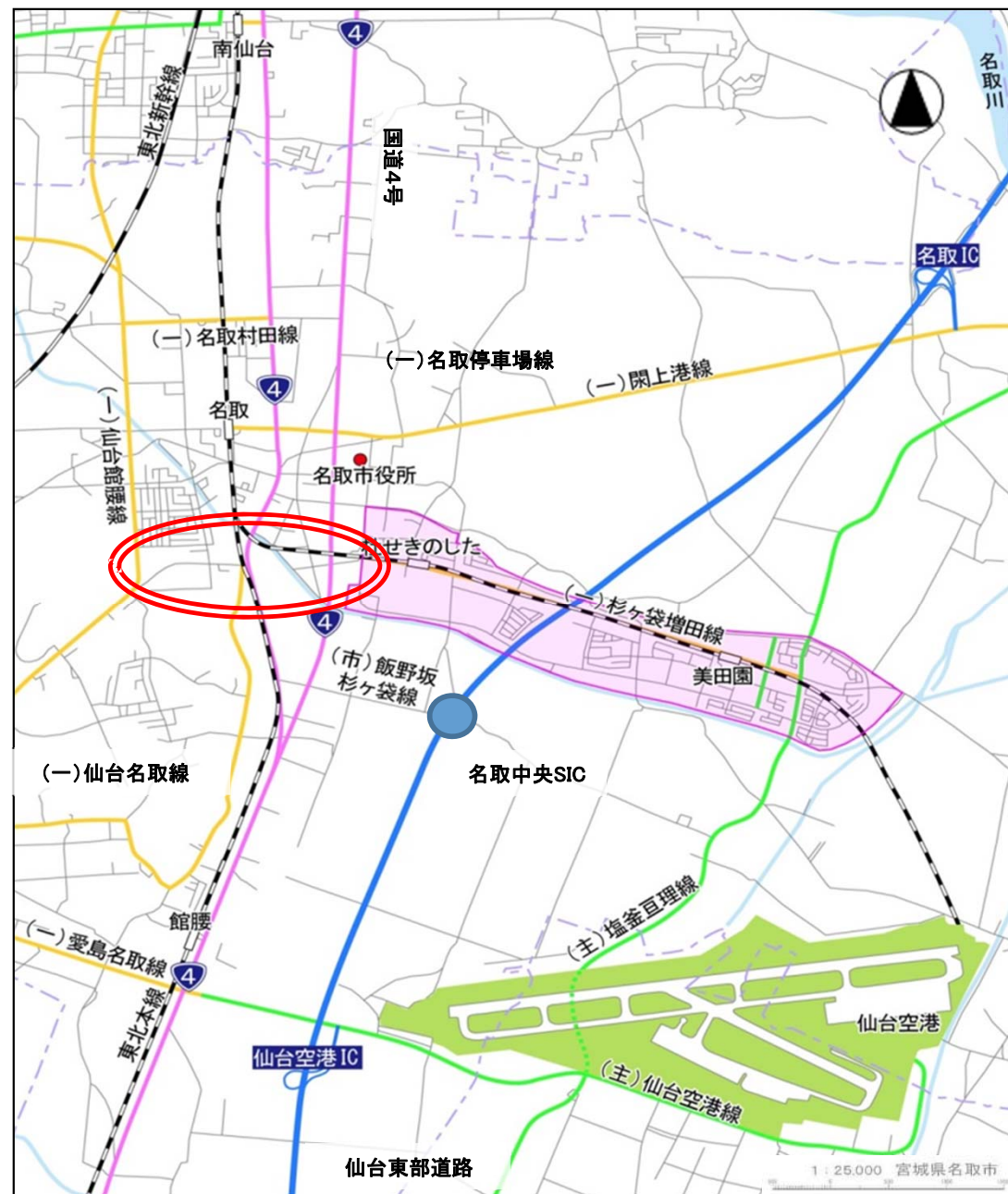


事業概要

ふりがな 応募者名	みやぎけん どぼくぶ としけいかくか 宮城県 土木部 都市計画課
ふりがな 事業の名称	としけいかくどうろ おおてまちしもますだせん 都市計画道路 大手町下増田線
ふりがな 事業主体	みやぎけん・なとりし 宮城県・名取市
ふりがな 実施都市名	みやぎけん なとりし 宮城県 名取市
事業概要 (400字以内)	本路線は、名取(なとり)市の中心市街地南部を東西に横断する幹線道路であり、市東側の旧市街地と、平成19年に街開きした市西側の「なとりりんくうタウン」を結ぶ重要な路線である。 当該地区は、JR東北本線と増田(ますだ)川により東西交通が分断され、朝夕には著しい渋滞が慢性化していた。また、沿線は、古くからの住宅や病院等が立ち並ぶ旧市街地であり、周辺に位置する増田西小学校や第一中学校の通学路は歩道が未整備となっているほか、車道も狭小であることから、早急な整備が望まれていた。 そのため、隣接する市事業と一体となり、現道拡幅による通学児童等歩行者の安全性の向上と災害時の通行空間の確保のほか、JR東北本線及び国道4号を立体交差することで、踏切の除却を行い、安全性の向上、都市内交通の円滑化、及び「なとりりんくうタウン」へのアクセス向上を図る。
事業規模	○事業延長:L=1, 032m ○事業費:120. 8億円 ○幅員:W=25~36m ○事業期間:平成16年度~平成28年度
事業の目的	JR東北本線と増田川により分断された市東側の旧市街地と、平成19年に街開きした市西側の「なとりりんくうタウン」を結び、双方のアクセス向上を図るもの。
事業効果 (効果一覧を参考に 具体的な効果を記入)	東西市街地が高架による4車線道路で結ばれることにより、都市交通の円滑化が図られ、生活利便性が向上したため、新市街地は10年経過した現在でも人口が増加し続け、成熟度が向上している。
地元対応等 ・地域住民との協働等 ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点	近隣住民のご理解を頂くため、小中学校を対象とした「親子現場見学会」を開催し、工事説明、高所作業車の試乗、橋梁床版へのお絵かきや絵の展示等のイベントを行った。

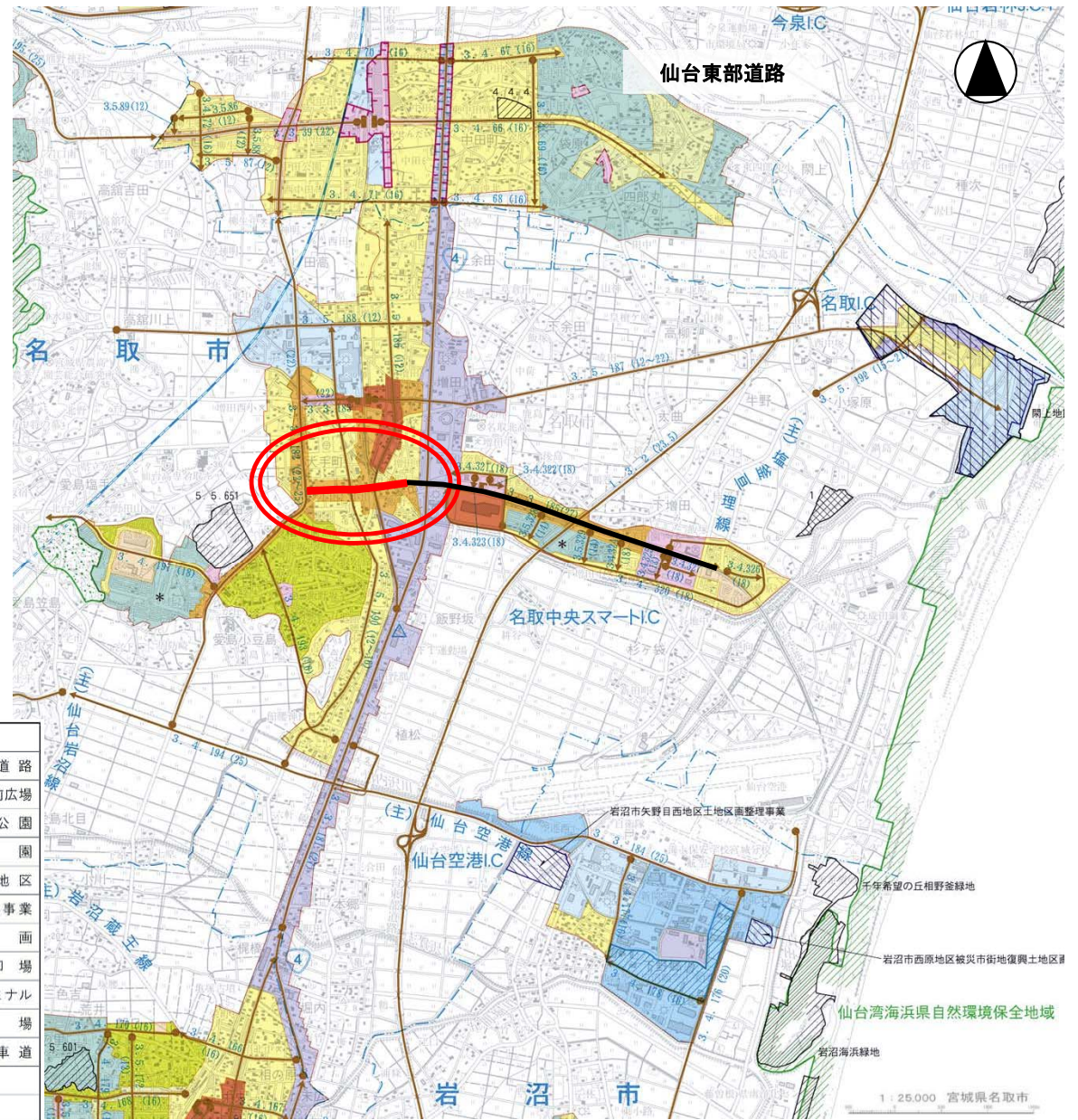
事業位置図



事業位置及び都市計画図(用途地域図)

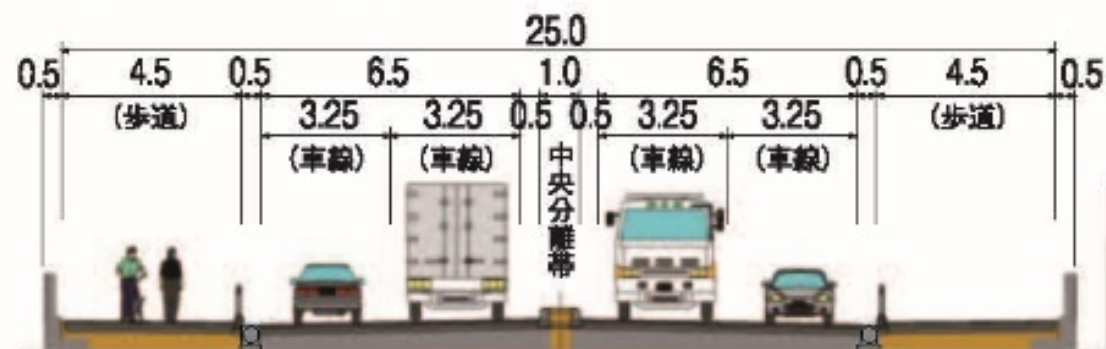


凡	例
都市計画区域(市域)	都市計画道路
市街化区域	交通広場・駅前広場
第一種低層住居専用地域	都市計画公園
第二種低層住居専用地域	墓園
第一種中高層住居専用地域	高度利用地区
第一種住居地域	市街地再開発事業
第二種住居地域	地区計画
準住居地域	ごみ焼却場
近隣商業地域	トラックターミナル
商業地域	火葬場
準工業地域	東北自動車道
工業地域	
工業専用地域	

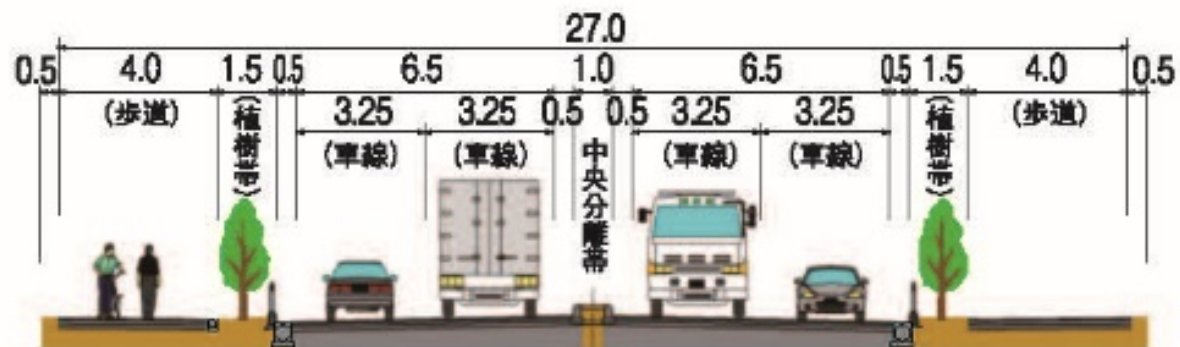


断面図

■道路断面図(宮城県事業)



■道路断面図(名取市事業)

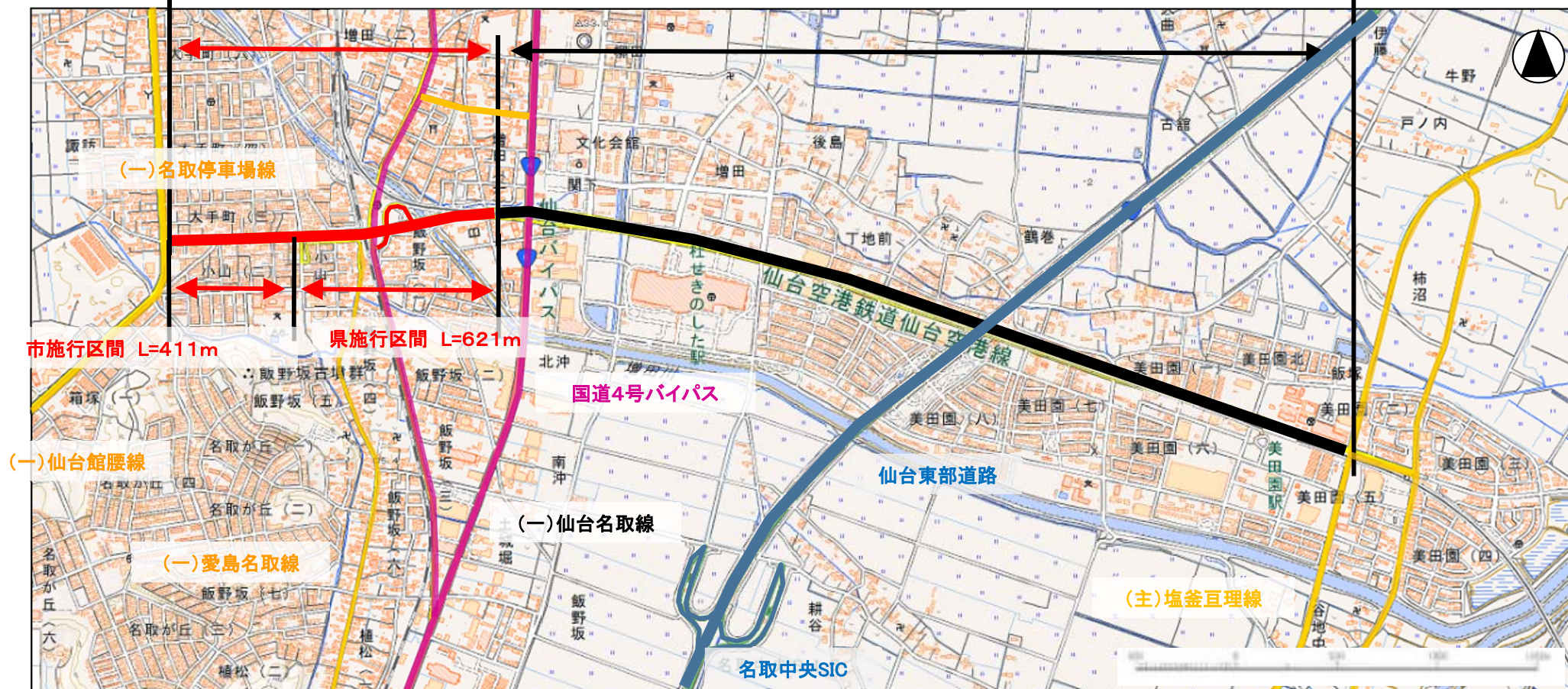


路線全体の進捗状況

都市計画道路大手町下増田線 総延長L=4.16km W=27m

今回応募区間 L=1,032m

整備済区間 L=3,13km



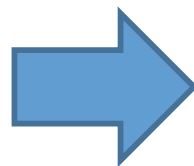
事業前写真



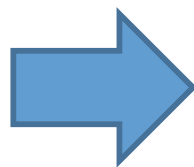
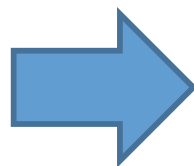
事業後イメージ写真



事業前写真



事業後写真



事業前写真



事業後写真



大手町下増田線の事業効果アピール資料

【主な整備効果】

○ 交流人口の増加

・東西市街地が高架による4車線道路で結ばれることにより、都市交通の円滑化が図られる。

交通量（りんくうタウン内）

震災前 H22: 7,065台/日【1.00】

震災後 H29: 14,323台/日【2.03】

※全線整備後 H42: 13,600台/日【1.92】

○ 人口の増加

・便利で快適な新市街地は10年経過した現在でも人口が増加し続け、成熟度が向上している。

交通量（りんくうタウン内）

計画 7,000人【1.00】

H19街開き H19: 1,652人【0.24】

H30末現在 H30: 9,533人【1.36】

○ 交通渋滞の緩和

・また、周辺道路も含み渋滞が緩和され、立体交差することにより踏切が除却でき、災害時には内陸への避難がスムーズになる。事故件数の減少が期待される。

全線開通による周辺道路への影響（H42将来交通量）

（都）田高増田線〔県道名取村田線〕…約34%減少

（都）名取駅関上線〔県道関上港線〕…約51%減少

（都）館腰愛島線〔県道仙台館腰線〕…約98%増加



3/25 日刊建設新聞

大手町下増田線が完成

県・名取市

きょう開通

県と名取市が整備を進めていた都市計画道路大手町下増田線が完成し、きょう25日に供用を開始する。事業は19年度に着手し、総事業費120億8000万円を投じた。同線の完成によって、JRなど東西に分断され

ていた交通網がつながり、市中心部の渋滞緩和、交通の円滑化に大きな期待が寄せられる。同日、現地で開通式典が開かれる。名取市中心市街地は、JR東北本線と下増田川により東西の交通が分断されており、朝夕には激

しい渋滞が慢性化していた。大手町下増田線は、渋滞緩和のほか、災害時の避難経路に緊急車両や物資輸送の円滑化、また仙台空港へのアクセス道路としての役割が大きく期待され、復興の大きな弾みとなる。

同線の総延長は、県施工が621m、市施工が411mの計1032m。全幅は25×36mの片側2車線。このうちJR、市

利用を想定した簡易宿泊施設を整備するもの。市は子供会やクラブ活動などでの利用を見込んでいる。桜の名所として知られる。

管理棟がある。市は館内に間仕切壁を設置し、畳を入れ替えて50人程度が泊まれるスペースを設ける。入浴施設がないため、

平屋（一部木造）422㎡の建物を改修し、30人程度が宿泊できるようにする。平簡泊の管理棟と同様に、間仕切壁など

ト業殺について、公募型プロポーザルで建設技術研究所（東北支社・仙台市青葉区）・中央復建コンサルタンツ（同）JV

街地、河川を跨ぐ名取中央高架橋は、橋長約250mの陸橋で施工を3工区に分けて架設を進めた。グリーン企画建設（名取市、春山建設（宮沼市）、大林組（仙台支店・仙台市青葉区）、JFEエンジニアリング（東北支店・仙台市青葉区）ら多くの企業が携わり完成させている。

一般交通開放は、25日午後3時から予定する。